

先週、私たちはキリストのうちにとどまることの大切さをともに学びました。今は終わりの時です。私たちは与えられた信仰に偽りが入り、自分自身が「偽り者」、「反キリスト者」となってしまうことのないように、いつも主の御霊と御言葉に導かれて歩ませていただきましょう。それが私たちをしてキリストのうちにとどまることであって、キリストの再臨の時に、私たちは主への信頼と平安をもって御前に出ることができるのです。

**Last week we learned how it is important to remain in Christ. This is the last hour. We want to be always lead by the Holy Spirit and God's Words so that our faith won't be distracted and we become a "liar" or "anti-Christ". That's how we remain in Christ and when Christ comes we can come before Him with trust and peace.**

さて、今日のテキストに目を向けましょう。1節をもう一度見ます。「私たちが神の子どもと呼ばれるために、…御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか」。キリストのうちにとどまる者とは、別の言い方では「神の子ども」です。私たちが神の子どもとなるために、神様はすばらしい愛を与えて下さいました。その愛とは、実に御子イエス・キリストが私たちのためにいのちを捨ててくださったという神の自己犠牲の愛です。そのキリストの愛については、次週に見ることにします。今日は私たちが「神の子ども」とされていることに焦点を当てたいと思います。

**Let's look at today's scripture. Verse 1 says, "See what great love the Father has lavished on us, that we should be called children of God!" Another word for those who remain in Christ is "children of God." God gave us a wonderful love for us to be His children. That love is the self-sacrificing love that God's son Jesus died for us. We will look at this, "Christ's love" next week. Today, we'd like to focus on us being "children of God."**

私たちはみな「人の子」です。ですから、生まれたままの状態では、だれも「神の子ども」ではありませんでした。しかし、神様の愛が私たちに注がれ、その愛を信じ受け入れることによって、私たちは「神の子ども」とされました。ヨハネは福音書の中で、私たちが神の子どもとなることについてこう記しています。「1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである」。

**We are all "children of men." None of us were born "children of God." When God's love was poured unto us and by believing and accepting that love, we became "children of God." John mentions in the Gospel of John: "Yet to all who did receive him, to those who believed in his name, he gave the right to become children of God— children born not of natural descent, nor of human decision or a husband's will, but born of God. (John 1:12-13)"**

神の子どもとされた人には、どのようなすばらしいことが待っているのでしょうか？それは神の御子であるキリストに似た者にされるといえるのです。私たちは主を信じた時に、一瞬のうちに全く主に似た者とされるのではないことは誰もが知っていることだと思います。しかし、そのことが即座に起こらなくても、うちには確かに御霊を受けていますので、主との交わりを持ち続けるならば、少しずつ主に似た者に変えられていくのです。つまり、キリストのように考え、キリストのように行動する成熟した者へと造りかえられていきます。

**What awaits the children of God? It's that we will be like Him. We know that we don't be like Christ in an instant, at the moment we believe Him, but we are sure to receive the Holy Spirit in us, so by keeping the close relationship with Jesus we will be like Him little by little. We will become mature people who think and act like Christ.**

そのようにして私たちの内なる人は主に似た者となっていくのですが、では、外のからだ（肉体）はどうでしょうか？残念ながら、このからだは年とともに衰えていきます。しみやしわは増えていきます。私たちのからだは意識しようがしてなかろうが、いつも働き続けていますから、それは必ず古くなっていきます。ですから、このからだはピークを過ぎると衰えていきます。そのような私たちに対して、神様は約束されるのです。ピリピ3:20 「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです」。

**That's how our inner person will be changed like Christ, but how about our outside (physical bodies)? Sadly, our bodies get old. We get more spots and wrinkles as we age. Our bodies continuously keep working so they get old. But God promises us this: "But our citizenship is in heaven. And we eagerly await a Savior from there, the Lord Jesus Christ, who, by the power that enables him to bring everything under his control, will transform our lowly bodies so that they will be like his glorious body. (Philippians 3:20-21)"**

ヨハネという人は、十字架にかかって死なれた主イエスも、また三日目に死者の中からよみがえり、人々にご自身を現わされた主イエスも、実際にその目で見、手で触った人です。つまり、彼はキリストの生き証人です。キリストがどのような栄光のからだをまとしてよみがえられたかを体験的に知っている人です。そのヨハネが、キリストの再臨の時に、神の子どもとされた者はみな主と似た者にされると告げているのです。ですから、キリストを信じる者は、今のこの世にあってそのことを望みにするというのです。いかがでしょうか？あなたはキリストに似た者となることを望んでおられますか？

**Apostle John actually saw and touched Jesus who died on the cross, and who rose again on the third day and appeared to people. Therefore he is a living testimony, who knows by experience how Jesus resurrected with His glorified body. So he says that will be our hope in this world. How about you? Are you hoping to be like Christ?**

私の息子のDaikiは、父親である私の真似をよくしますがります。私はそれを時にうれしく、時に面倒くさく思ってしまうのですが、あらためて考えるとそれは親としてとても光栄なことであると思うのです。先週も私の真似をしてネクタイをしたいというので、ハンカチで作ってあげました。なぜ彼は私の真似をしたがるのでしょうか？それは彼が私の息子だからです。私だけが、息子に真似られるような特別な人でないことはみなさんをご存知のことでしょう。彼が私の真似をするのは、私が彼の父親であり、その事実ゆえに彼は私を特別視し、私に似た者となろうとするのです。

**My son Daiki likes to copy me. That makes me happy and also little annoying sometimes but I think it is a big honor as a parent. Last week he wanted to wear a tie like me so I made one with a handkerchief for him. How come he wants to be like me? It is because he is my son. You all know that I'm not that special. He copies me because I am his father and he has a special feeling for me and tries to be like me.**

ですから、神の子どもとされた私たちが、キリストに似た者となることを望むのは当たり前のことといえます。私たちは神様から生まれた者であって、私たちのうちには神の種がとどまっているのです。つまり、神の御言葉が私たちのうちにとどまるので、私たちはそれによって自分が父なる神様に属する者であることを知るので、では、なぜここでは御父(神)に似た者ではなく、キリストに似た者となるのでしょうか？それは神様が霊なるお方であるからです。栄光のからだをもっておられるのは神の長子である主イエス・キリストです。私たちは父なる神様のようにではなく、内側も外側も主イエス・キリストに似た者となるのです。

**Therefore, for us who became the children of God to hope to be like Christ is a natural matter. We were born from God and we have seeds of God in us. God's Words remain in us and we know that we belong to Him. Then why does it say here we will be like Christ, not God the Father? Because God is the Spirit and the one who has the glorified body is His son, Jesus. We become not like God the Father, but like Jesus, both inside and outside.**


ヨハネは3節で続けます。「キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします」と。これはどういう意味でしょうか？この後に、「罪を犯している者は、不法を行っているのです。…」と続くように、自分を清くするとは、まず罪から離れるということがいえます。神を父に持たない人の子にとって、罪の生き方をするのは当たり前です。しかし、神によって生まれた神の子どもは違います。9節の後半で「その人は神から生まれた者で、罪のうちを歩むことができないのです」と記されています。つまり、神の子どもとされた者は、もはや罪のうちを歩むことができなくなるのです。罪を犯すことはあっても、罪を犯し続けることができなくなるのです。なぜなら、神の子どもには父なる神の光が照らされているので、闇の中にとどまることができないのです。

**John continues in verse 3: "All who have this hope in him purify themselves, just as he is pure." What does this mean? As it follows "Everyone who sins breaks the law; in fact, sin is lawlessness." to purify oneself means to be kept away from sin. It is quite natural for someone who doesn't have God as a Father to live in sin. But not so for the children who were born of God. Verse 9 says, "they cannot go on sinning, because they have been born of God." For those who became a child of God cannot go on sinning. They may sin but they cannot keep sinning because the light of God the Father shines upon them they cannot remain in darkness.**

自分を清くすることのもう一つは、義を行うことです。つまり、それは兄弟姉妹を愛することです。義とは、神様の御心を表します。ですから、私たちが神様の御心を行うこと、それが義を行うことです。このことは、4節の「罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうこと」と反対のことです。律法とは、神様が人のために定められたものですが、それは神様の御心です。その御心に背くことが罪であり、従うことは義を行なうことです。

**Another way to purify oneself is to act righteous. It is to love others. Righteousness portrays God's heart. Therefore, for us to do God's will is to be righteous. It is a contrast to what it says in verse 4, "Everyone who sins breaks the law; in fact, sin is lawlessness." The law is something God set for us humans and it is God's will. It is a sin to go against God's will, and it is righteous to obey.**

12節にカインの名が出てきます。カインはアダムとエバの息子ですが、彼とその弟アベルについて記してある聖書箇所を開きます。創世記4章1-8、「4:1 人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、『私は、主によってひとりの男子を得た。』と言った。2 彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。3 ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、それも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。6 そこで、主は、カインに仰せられた。『なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。7 あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。』8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。『野に行こうではないか。』そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した」。

We see the name Cain in verse 12. Cain was the son of Adam and Eve. Let's look at the scripture that mentions about him. Genesis 4:1-8: "1 Adam made love to his wife Eve, and she became pregnant and gave birth to Cain. She said, "With the help of the LORD I have brought forth a man." 2 Later she gave birth to his brother Abel. Now Abel kept flocks, and Cain worked the soil. 3 In the course of time Cain brought some of the fruits of the soil as an offering to the LORD. 4 And Abel also brought an offering—fat portions from some of the firstborn of his flock. The LORD looked with favor on Abel and his offering, 5 but on Cain and his offering he did not look with favor. So Cain was very angry, and his face was downcast. 6 Then the LORD said to Cain, "Why are you angry? Why is your face downcast? 7 If you do what is right, will you not be accepted? But if you do not do what is right, sin is crouching at your door; it desires to have you, but you must rule over it." 8 Now Cain said to his brother Abel, "Let's go out to the field." While they were in the field, Cain attacked his brother Abel and killed him." 

なぜ神様はカインとそのささげ物に目を留められなかったのでしょうか？それは7節で神様が告げておられるように、カインの心が神様に対して真っ直ぐに向いていないことを神様が知っておられたからです。アベルのように最善のものではなかったとしても、実際にはカインも主へのささげ物をしたのですから、もしカインの心に何かやましい思いがなければ、彼は弟を嫉む必要はなかったでしょう。しかし、カインの心には確かに不正があったのです。彼はアベルのように自分を清くすることには重きを置きませんでした。それゆえに、彼と彼のささげ物に目を留めなかったのは神様ですが、彼の怒りは神様に対してではなく、正しいことを行った弟のアベルに向けられ、彼は弟を殺してしまったのです。

**How come God did not look Cain's offering with favor? As God says in verse 7, He knew that Cain's heart was not straight to God. He still brought an offering so he shouldn't be jealous if he didn't have any guilty feeling. But there was something not right in his heart. He did not focus on purifying himself. It was God who did not look at his offering with favor, but Cain's anger was headed not against God but to his brother Abel and he killed him.**

神様は、カインがアベルを殺す前に彼に警告しています。7節、「罪が戸口で待ち伏せて、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである」。神様のそのようなおことばにも関わらず、カインは自ら罪を犯すことを選びました。つまり、彼の父母であるアダムとエバが神のことばではなく、悪魔の声に聴き従ったように、カインもまた悪魔の誘いの声に聴き従うことを選んだのでした。ヨハネは、12節で「カインのようであってははいけません」と命じています。

**God warned Cain before he killed Abel. In verse 7: "sin is crouching at your door; it desires to have you, but you must rule over it." Despite His word, Cain chose to sin. Just like his parents Adam and Eve listened to not God but Satan, Cain also chose to follow Satan's tempting voice. John urges in verse 12: "Do not be like Cain."**

「キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします」と。この「自分を清くします」とは、私たちが何もしなくても、神様が自動的に私たちを清くして下さるということではありません。私たちが自分で自分を清くしなければなりません。アベルのように、自分の意志で神様を愛し、神様に望みを置くゆえに、進んで義を行なうのです。それが時間であれ、能力であれ、持つ物であれ、自分自身であれ、最も良いものを主に對してささげるのです。それが自分を清くするという事ではないでしょうか。そのような人に神様が目を留めてくださらない理由があるのでしょうか？神様は、終わりの日にそのような人を全くキリストに似た者にして下さいます。

**“All who have this hope in him purify themselves, just as he is pure.” This “purify themselves” does not mean we do nothing and God automatically purify us. We have to purify ourselves. Like Abel, we love God by our own will and hope on Him and act righteous. Whether it is your time, ability, possession, yourself... offer your best to the Lord. That is purifying yourself. There is no reason God won't look to that kind of person with favor. He will make that kind of person to be like Christ on the last day.**

今日、あなたは神の子どもとされていることを喜び、キリストに似た者となることに望みを置いていますか？その望みのゆえに、キリストが清くあられるように、自分自身を清くしていますか？私たちは自分の力だけでは、罪から遠ざかり、義を行なう生き方など到底できません。しかし、私たちのうちにほんの僅かでも栄光の主を仰ぎ見る信仰があるならば、主はその信仰を通して、上からの助けを豊かに与えて下さるのです。終わりの日は、刻々と近づいています。その日が来たならば、自分がキリストに似た者となることを望みとして、私たちはこれからも自分を清くすることに精一杯、努め励もうではありませんか。

**Are you rejoicing that you are a child of God and hoping to be like Christ? By that hope are you purifying yourself like Christ is holy? We cannot live in righteousness away from sin by ourselves, but with small faith to look up to the Lord of glory He gives us abundant help from above. The last day is near. Let us hope that we will be like Christ on that day, and make an effort to purify ourselves each day.**